hida
広報
ひだ
町木
第63号
肥田町
まちおこし推進協議会
H24.10.31発行

本当のまちづくりから見た

「三津、海瀬町の広域化ゴミ処理施設計画の候補地選定計画」への疑問

先ず我々住民は、今回の広域で大型のゴミ処理施設設置計画の撤回を強く求めて参ります。なぜ町の住宅地に近く、かいぜ寮という福祉施設にも隣接するこの地を候補として進めようとしておられるのか、行政の方々は多くの住民の心配の声を今一度しっかり受け止めて頂きたいと思います。

なるほど、湖東地域広域ゴミ処理施設整備基本構想（平成20年５月）において、近年ゴミ処理を取り巻く課題は多様化が進んでおり、的確なその課題処理が求められ、処理効率を含めた経済的な面からも広域的な視点に立った総合的且つ効率的な処理体制の構築に取り組んで行こうという基本の姿勢は理解出来ますが、今回の三津、海瀬町が当ゴミ処理施設の候補地として進められている計画については近隣町としては一切の情報、相談も無く突発的に７月に聞かされたこと、しかも自治会の傘下にある開発委員会の一部の人が手を挙げられただけで候補地を直ちに選定に入りたいとの手順には、日頃、真剣に我々のより安全な生活圏、環境保全に取り組んで来ておられる多くの地域住民の熱い思い入れを全く軽視されているのではないかと行政当局の態度には失礼ながら理解できず義憤すら感じている次第です。一方で滋賀県一般廃棄物処理広域化計画に「広域化施設の整備には、困難が予想されることから、今迄以上に施設周辺住民の理解と協力が不可欠であり、計画段階で十分な住民説明を行うとともに―」と配慮が示されています。

私達の町は、ご存知のように恵まれた自然に育まれた先輩の人々の歴史あり、ロマンも刻まれています。私どもが永く取り組んできた「まちづくり」「まちおこし」は、そのような「自然と人間の歴史の共生する温かい息吹を絶やすことなく次の世代へ継ぎ伝えていく責務がある」と受け止めて日々努力しているところです。このたびの候補の地帯も、そもそもの発想の原点は世の中の、地域のみんなにお役に立てるために活用ということであったと聞いていました。しかし今は、そこに利害関係もあって、このタイミングを逃してはと一部の方が走り込もうとしておられるのではと見えますが、その方々にこの一時の判断が、これからの我々の子孫にどのような有形無形の悪影響を及ぼすかと家族で語り合われたことはありますかとお尋ねしたい気持ちです。100億をかける恒久的な施設、安全神話を振りまいておられるようですが、今生きている我々の世代の人がじっと見守り通すことは不可能です。親が子に、町が後継者に住みよい、住んで良かった町をと考えるとき、いかに説得されてもこの施設だけは許すことは出来ないと思うのが本当に全体の気持ちです。近隣地の町でも住民みんなの意思として署名活動も行いました。肥田町、金沢町は全戸が反対の意を表明しています。また、野良田町、千尋町は自治会長の代表した反対声明も出ており、地元の三津、海瀬町も全戸の80％以上が撤回の意思を示しておられます。総てに熱い重たいものです。このままでは私達は不安を抱えた毎日が続くでしょう。行政当局におかれても長期的な視野に立って深く住民の生活環境を考えていただき、そこに生活する大多数の住民により近いご判断をお願いする次第です。

三津町、海瀬町も、私ども隣接の町にとっても今日までお互いに温かい心のつながる素晴らしい町でしただけに、少しでも人心に地割れを起こすようなことがあってはと共同体意識の強い近隣町としても心を痛めています。目下、三津町の自治会長、役員の方々が町住民の本計画撤回への総意を受けて広く努力を払われておられ心強く思っております。このたびの事は色々と農業とも関係があるとは伺っていますが、時は流れて今日に至っては、地域の少子高齢化が一段と進んだことと、またエネルギー問題への取り組み等大きい変革が求められる時ともなっており、町の自治会としてもより新鮮な切り口で、激しい時代の変化に対応して、広く市や県に留まらず先進企業とも一体となって協力と支援を呼び込み、次世代に充分配慮した方針を衆知を集めて、本当にみんなに喜ばれる活用は何かを新しく問いかけ進めていただきたいと思っています。私たちの町づくりは、第一に人づくりから、常に連帯感の培われる町、育まれた歴史を大切に伝え、そして何事にも強い明日の町を目指すところです。是非とも隣接町にも「これでよかった」の共生の町づくりが続きますよう、お互い努めて参りたいと思います。

肥田町まちづくり委員会　藤野　泰弘

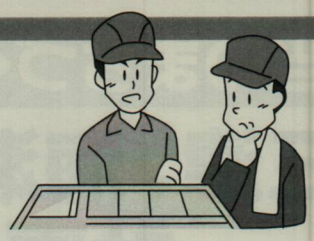
写真で見る 活き活き 町の活動

7/24
子ども座禅の集い
「止静」「無言」

7/6 生きものを育てよう
ホタルの新しい住まい
東町の裏川へ

平成24年度
第２回集落営農法人情報交換会が肥田町で開催

2012/10/13㊏



ファーム肥田 ハウス栽培（カブラ）

今回は滋賀県湖東農業農村振興事務所農産普及課の中田主幹の司会で、集落営農を経営的な観点から観察するため下記の三つの当面する課題についての討議が行われました。

1.労務改善の取り組みについて、「基本技術が徹底できる労務体制づくり」
2.機械の導入と保守管理の工夫「集落内農機具店との連携」
3.野菜の取り組み「多角化に取り組むスタンス」

参加されたのは、湖東地区のつづらファームなどの12の営農法人と、県農産普及課を始めとし彦根市、愛荘町、豊郷町及びJA東びわこの営農振興部門関連と湖東地域農業センター他で総員44名の方が出席されました。

特に今回は開催地元の肥田町ファーム肥田の活動形態がモデルケースとして取り上げられ、最初に代表理事 成宮一郎氏からファーム肥田の立ち上がりから今日までの経過の概要を説明されました。「肥田の農業は肥田で守る」の信念を掲げた平成16年度から始まった肥田町の経営体育成基盤整備事業の中で平成17年３月の農業生産組合の設立、次いで23年12月に農事組合法人ファーム肥田の設立、その具体的な展開について上記の三つの課題に沿って説明がありました。

ファーム肥田の特徴は、

労務の改善については、従来の労務への出役の手法を平成24年度から変更し、会社を退職され、以前から農業にも慣れておられる壮年の２人の方を副運営委員長、労務管理部長として組織の管理、運営の一つの軸となってもらうように替えて、老、若の組合員とのコミュニケーションの円滑化に努め、オペレーター、除草、刈り取り補助、在宅事務、会議の全般にわたり労務の見直しにより採算のとれる管理に結びつけることが出来る方向へ進めて来ている。比較的高齢な方々には麦大豆への応援、また蕪のハウス栽培にも当たっていただいている。

そのハウスでの蕪の栽培は、永らく元の勤務先から蕪栽培を受けて来ておられた方の熟練の技術指導を受けて、その会社との契約栽培の形で進められてきており、採算面の安定に寄与している。野菜栽培は多角化に取り組むためにも前提として安定した納入先が望める契約栽培の方式が運営上好ましいと考えられる。

ファーム肥田 農舎見学

農業用の機械の導入管理については、ファーム肥田では、地元の伊関商会さんの支援が大きく寄与し、常に安全、安心のために機械の維持管理に留意している。とくに機械を長持ちさせることが経営採算面にも重要で、常に伊関商会さんの細かい機械の点検に支えられて来ている。伊関商会さんは、現場に近く即時対応の体制も作っておられる。当日は伊関新一社長も出席され、皆さんに機械の管理やフォローについて広く説明されました。

なお、全体の組織体の経営能力の向上の課題については、参加各法人とも組合員の次世代への継承が最も難しい課題だと指摘があり、今から若い世代をいかに育成するかの取り組みと行政サイドでの農政面の支援も急がれるところと感じました次第であります。

当日の説明会に参加し、農業の新しい課題に接し勉強させていただきました。各ファームの皆さんの益々のご精進とご発展を心から祈念申し上げます。

広報ひだ　藤野　泰弘

写真で見る 活き活き 町の活動

10/7 ボランティアサークル
ひだまり
クリーン活動
宇曽川堤、県道のゴミ除去収集

10/21 お魚観察会

僕らはみんな生きている
生きているから嬉しいんだ